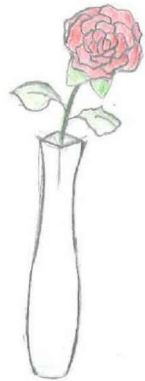


Kaga
Junior High School

My Favorite Books



加賀中学校おすすめブックリスト第2弾です。

今年度も生徒の皆さん、先生方、ボランティアの皆さんに協力して頂き、発行することができました。

ありがとうございます。

あの人のおすすめ本が、あなたの大切な本になるかもしれません。

とっておきの一冊を見つけて下さい。

*Notation・・・★好きな一文 ◇選んだ理由 ◆皆に伝えたい見どころ

『下町ロケット』

池井戸潤 小学館 小学館文庫



★我々は一向に困ることはありません。

どうぞ、お引き取りください

◇この言葉があったからこの不公平で自己中心的な一次テストを切りぬけられたと思うからです。そして言葉があったから俺が夢を追え、夢を叶えられたと思うからです。

◆この本は中学一年生の平凡な中学生がすべての内容が分かるぐらい、分かりやすい本です。しかもこの本を見るときつと、いい夢ができるでしょう。その夢を目指してがんばってください。(1年男子)

『エースナンバー』

須賀しのぶ 集英社 集英社オレンジ文庫



全部。この本の全部がいいです。

◇本屋で本を探していたら、裏表紙の「勝ち残りたい。一日でも、長く。」という言葉に惹かれ、とりあえずあらすじを見た。そしたら、高校球児の熱い夏を描いたもので、とてもおもしろそうだったので、この本を選んだ。

◆元々、初戦敗退の常連校だが、エース月谷を中心に甲子園を諦めず、みんなで全力で努力をしていくお話で、途中、チームメイトがチームをはなれたりもするが、最後は全員そろって、最後の夏にいどんでいくところ。(1年男子)

『別冊 図書館戦争Ⅱ 図書館戦争シリーズ⑥』

有川浩 株式会社KADOKAWA 角川文庫



★心配なんてもんは『してあげる』ようなもんじゃない、心配『したい』から勝手に心配するもんだ。

◇ずっと前からこのシリーズが大好きで、図書隊員たちが命がけで本を守る姿がとてもかっこよく、読んだ瞬間はまり、皆にも読んでほしいと思ったからです。

◆図書館戦争のキャラクターが一人一人個性的で笑えるところがたくさんあります。それと同時に感動するところもあったり恋も盛りだくさんです。とてもとてもおもしろいので、ぜひ読んでみてください!!(1年女子)

『天使は奇跡を希う』

七月隆文 文藝春秋 文春文庫



★これは、天使が奇跡を ^{こいねが}希う物語。
ぼくと優花の、魂をかけた物語だ。

◇今までに読んだ本の中で一番おもしろくて、すごく良かったのでおすすめ本として紹介したかったから。

◆この本を読んでいくうちになぜ「天使は奇跡を希う」のかわかっていきます。最初はぜんぜん意味がわからないけれど読んでいくうちにわかってくる所がおもしろいです。(1年女子)

『ちょっと今から仕事やめてくる』

北川恵海

株式会社KADOKAWA アスキー・メディアワークス メディアワークス文庫



★「俺の人生は、お前のためにあるんでも、この会社のためにあるんでもねえ。俺の人生はなあ、俺と、俺の周りの大切な人のためにあるんだよ！」

◇僕も確かに自分の人生は他人のためにあるわけでもなく、自分と周りの大切な人のためにあるものなのだと思ったから。

◆この本の主人公は仕事で失敗ばかりしてしまっている人です。しかし主人公はヤマモトという男に命を救われます。ヤマモトと出会うことによって主人公がどう変わっていくのかが見どころです。(1年男子)

『きよしこ』

重松清 新潮文庫

★それが、君のほんとうに伝えたいことだったら……伝わるよ、きっと

◇この本を通して、吃音の苦しさに気づき、改めて、そういう人たちがどんな思いでいるのかというのを、考え直してほしいから。

◆主人公の気持ちを言葉にできないという、切なさや苦しさが伝わってきて、思わず涙が流れてしまうところ。(1年女子)



★ひとりぼっちのひとなんて、世の中には誰もいない。抱きつきたい相手や手をつなぎたい相手はどこかに必ずいるし、抱きしめてくれるひとや手をつなぎ返してくれるひとも、この世界のどこかに、絶対にいるんだ

◇私は、作者の重松清さんが好きで、その中でもきよしこという話がおもしろかったからです。

◆少年は言葉がつかえてしまい、いい言葉がいえずに悔しかった。学校では、いじめられ思ったことを何でも言える友達が欲しかった。そんな少年はある年の聖夜の夢の中「きよしこ」に出会った。「きよしこ」との会話ではいい言葉がいえて自分の話をすべてきいてくれた。そんな「きよしこ」が少年に言った一言は…。(2年男子)

『お任せ！ 数学屋さん』

向井湘吾 ポプラ社 ポプラ文庫



★たとえ、一緒に背負うことはできなくても……。
一緒に悩んであげることくらいは、できるかもしれないから。

◇数学の問題が丁寧に解説されているので、わかりやすく数学が学べるから。中学校が舞台の青春小説で、最後が感動できるから。

◆中学校生活で身近な悩みを、発想を転換して数学で解決していくところ。ストーリーもおもしろいので、数学が苦手でも青春小説として楽しめるところ。(1年女子)

『世界から猫が消えたなら』

川村元気 小学館 小学館文庫



全体的に好きです

◇友達にすすめられて読んだら、とても良いお話で、好きになったから。

◆この本は、感動するお話ですが、面白いところもあります。例えば、悪魔がアロハシャツを着ているところや、主人公の飼い猫のキャベツが急にしゃべり出すところです。この本で、私が1番感動したのは、主人公が猫は消さないと言った所でした。また、主人公にお母さんが書いた手紙がとても主人公を思っている感じがして感動しました。1度読み始めたら手が止まりません!!(2年女子)

『銀河英雄伝説』

田中芳樹

東京創元社 創元 SF 文庫 装画:星野之宣 装幀:岩郷重力+WONDER WORKZ。



★私は最悪の民主政治でも最良の専制政治にまさると思っている。
(5巻『風雲篇』より)

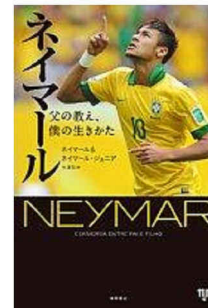
信念のために人を殺すのは、金銭のために人を殺すより下等なことである。(6巻『飛翔篇』より)

◇多くの人物が登場し、それによって展開されるストーリーにハマってしまったから。

◆この本には人生に役立つ言葉がたくさんあります。この本を読めば、必ず人生の指標となる言葉が見つかるはずです。(2年男子)

『ネイマール 父の教え・僕の生きかた』

ネイマール&ネイマール・ジュニア 徳間書店



★僕にとっての勝利は結果じゃない。歓びを感じてプレーすることだ

◇この本を読めばサッカーをやっている人はもちろん、サッカーをやっていない人でも多くのことを学べると思ったからです。

◆全てです。ネイマールのサッカーから私生活まで一挙手一投足を父視点と本人視点から見て書かれているので、1ページも飛ばさずに読んでほしいです。(2年男子)

『君にさよならを言わない』

七月隆文 宝島社 宝島社文庫



★「生きて。私の分まで、いっしょうけんめいに生きて。

そして……幸せになって」

◇交通事故をきっかけに、幽霊が見えるようになった主人公“明”。そんな中、六年前に死んでしまった初恋の幼馴染は、ある未練を残してこの世にとどまっていた。そんな幼馴染の魂を救ったことをきっかけにたくさんの幽霊たちを救っていく物語。(2年女子)

『愚者のスプーンは曲がる』

桐山徹也 宝島社 宝島社文庫



◇この本は、とにかくテンポが良く、読みやすいところがおすすです。ふだん本を読まない人でも楽しめる一冊だと思います。

◆ある日、主人公の町田瞬は超能力者だという二人組に、能力を消す超能力者だと告げられ、一緒に働くことになる。登場人物たちの超能力にも注目です。(2年女子)

『そして名探偵は生まれた』

歌野晶午 株式会社祥伝社 祥伝社文庫



★左手で右肘を支え、右手の親指と人差し指を顎に当て、薄く目を閉じ、吐息に乗せるように影浦は呟いた。

◇この本は、「本格推理」と呼ばれるジャンルです。本格推理小説は言葉や言いまわしが難しく、読みにくい点が多くあるのですが、『そして名探偵は生まれた』では本格推理独特の雰囲気がありながらもセリフが多く、読みやすいと感じたのでご紹介します。

◆先ほども言った通りこの本にはセリフが多く、その場の雰囲気がよく分かります。そのため話に入っていくやすいので、読んでいてとてもおもしろいです。推理小説が好きな人も、読んでみたい人もぜひ書店で探してみてください。(2年女子)

『旅猫リポート』

有川浩 講談社 講談社文庫



★「置いていきたいわけないだろう、大好きだよバカ！」

◇猫のナナの新しい家が決まって主人公のサトルと別れる前のケンカのシーンで最初は悪口を言っていたのに最後には自分の本音を言って別れる場面の一文だから。

◆旅猫リポートは最初の方は旅の中でのサトルとナナの会話や他の猫に対しての少し上から態度がとてもおもしろいです。そして、最後の別れの場面はとても感動できる内容になっています。(2年男子)

『か「 」く「 」し「 」ご「 」と「 」』

住野よる 新潮社



★それぞれが、各仕事を与えられて、そうやって皆が支え合っているんじゃないかって思い始めました。

◇題名にひかれて読んでみたら、登場人物が個性豊かで読み出したら止まらなくなったから。

◆5話に分かれていて、それぞれ主人公が違うので登場人物の心情などがよく分かり、読むと本の中に入り込んだような気持ちになります。(3年女子)

『豆の上で眠る』

湊かなえ 新潮社



★「あんたにとって、本ものの万佑子、って何？」

◇人気作家・湊かなえさんの作品で一度読んで欲しいと思ったから。この作品のラストは凄く衝撃的なので、自分で読んでみて欲しい。

◆「お姉ちゃん、あなたは本物なの？」姉妹ミステリーです。中盤から、物語に引き込まれてあっという間に読めます。とても面白いので読んでみて下さい。(3年男子)

『恋する寄生虫』

三秋縊

株式会社KADOKAWA アスキー・メディアワークス メディアワークス文庫



★何から何までまともではなくて、しかし、紛れもなくそれは恋だった。

◇この本を読むと、今までの自分の恋愛に対する考え方を改められるから。

◆潔癖症の高坂賢吾と視線恐怖症の佐藤ひじりが恋におちたのは、「虫」が原因ですが、ラストで分かる真実を読むととても感動します。(3年女子)

『君の睥睨をたべたい』

住野よる 双葉社 双葉文庫



★君が今までしてきた選択と、私が今までしてきた選択が、私達を会わせたの。私達は、自分の意思で出会ったんだよ

◇この本は、大切な友人が私に薦めてくれた本です。内容がすごくおもしろくて思わず一気読みしてしまいました。本の台詞一つ一つに心動かされたので、ぜひ読んでほしいです。

◆タイトルを見て不思議に思う人も多いと思いますが、読み終えた後にこの言葉の意味が、きつと良くわかるはず。生きるとは何か出会いとは何か、大切なものについて改めて考えさせられる本です。(3年女子)

『ハッピーノート』

草野たき 福音館書店



★だって、こういう嘘はついてもいい嘘だから。

うまく泳げないときにつかう、ビート板みたいなものだって、思ってるから。

◇どうしても考えすぎてしまって、周りの目を気にして友達にも本当に思っていることを素直に伝えられず、自分を嘘で閉じ込めている主人公と繋がる部分があったから。

◆決して不幸ではないし両親にも愛され学校でいじめられているわけじゃないのに何故か満足しないという経験があると思います。「自分を追い込んでいるのは自分なんだ。」肩の力を抜いて視線を上げてみたら自分の思っている以上にみんなも同じなんだと気づかせてくれる本です。(3年女子)

『スープの国のお姫様』

樋口直哉 小学館 小学館文庫



★悲しみは美味しいものが癒してくれるし、喜びは一緒にいる人が増やしてくれる

◇この本を書いたのは僕の叔父で、僕が初めて読んだ小説がこの本だったからです。

◆この本は、料理のことが細かく書いてあって、料理のことをしらなくても読みやすいところです。(3年男子)

『星を継ぐもの』

ジェイムズ・P・ホーガン

東京創元社 創元 SF 文庫 訳:池央耿 装画者:加藤直之



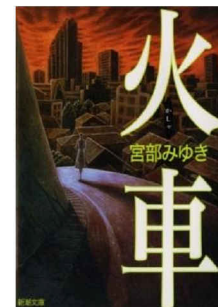
主人公の一人、クリス・ダンチェッカー博士が最後の方で言うセリフがカッコいい。人類の明るい未来を照らしている言葉です。ネタバレになるから書けないですが。

◇月面探査で赤い宇宙服の遺体が偶然発見される。しかし生体を調べると、遺体は5万年前のものだった…(ハア?)という豪快な導入。「チャーリー」と名付けられた遺体は、どう調べても現在の人類そのものでした。でも、人類が月に行けるようになったのはほんのここ数十年程の話です。この謎、解ける?私は解けなかった…。

◆私が中学、高校時代に熱中したSF小説。私の中でベスト1です。この本を徹夜で読んだ時のワクワク感は今でも覚えています。終盤からエピソードまで、人類の起源に迫る畳みかける怒涛の謎解きSF。読まずに死ねるか!?科学や理科系が好きな人は、きっとハマります。ミステリーが好きな人も!(校長)

『火車』

宮部みゆき 新潮文庫



★破産に追い込まれるような人たちは、むしろ非常に生真面目で臆病で気の弱い人たちが多い

◇当代一流作家の宮部みゆきの「宮部ワールド」をこの世に知らしめた原点の作品。最近の宮部の作品とは一味も二味も違う、今なお図書館で貸し出し中の多い作品である。

◆「火車」とは中国語で「汽車」つまり鉄道のことであるが、これはまさに日本語の「火の車」つまり借金の事である。将来、カードローン等の使い過ぎにより、多重債務者にならないように、知識を備えてほしい。(副校長)

『東京プリズン』

赤坂真理 河出書房新社 河出文庫



私自身が学生時代に経験した、英語による「核兵器のための核実験の全面禁止」のディベートを彷彿とさせるディベートの場面が圧巻。また、敗者や弱い立場の人々の声がメタファーとして表現されている場面もよい。

◇恩師からの推薦。若い世代の歴史観と体験に基づいたと思われる米国の高校での授業内のディベートが興味深い。歴史上の選択は、その時代に生きる者も含め、人類全体の責任となることを痛感させられた作品。

◆自国の歴史を客観的に振り返る機会はない。まして他国(米国)から見た日本の近代史は興味深かった。地球環境、安全保障、経済等、グローバルな視点で地球の方向性の選択を迫られている現在、歴史認識を改めて考える本。(教員)

『湯を沸かすほどの熱い愛』

中野量太 文藝春秋 文春文庫



★「お母ちゃん、絶対に絶対にお母ちゃんを一人ぼっちにしないで、だから安心して」

◇この言葉を言った安澄はいじめられっ子でした。ずっとそばにいてくれた母が死ぬ時、今度は自分が母を安心させなければ、と決心した時の言葉です。ずっと守られていた少女の、自立への一歩に感動しました。

◆主人公がその都度変わり、一つの家族の事件に対して母・父・娘などの視点で描かれています。中でも娘の安澄がいじめに立ち向かい、自分の出生や母の死など降りかかる困難により成長していく姿にとっても感動します。(教員)

『NO.6〔ナンバーシックス〕#7』

あさのあつこ 講談社



★ここから先、何が起こるのか。何が待っているのか。僅かも予測できないのだ。奈落か？奇跡か？生還か不帰か？一歩先は読めない。

◇2人の少年の緊迫感がひしひしと伝わってくる場面です。これから先、何が待ち受けているのか…ハラハラの展開!!

◆2人の少年がとあるきっかけで出会い、巨大な権力に立ち向かっていく物語。互いに持っていないものを補填し、助け合いながら数々の困難に向かっていく。予想もしない展開にどんどん物語にひきこまれていきます!(教員)

『キノの旅 the Beautiful World』

時雨沢恵一

株式会社KADOKAWA アスキー・メディアワークス 電撃文庫

イラスト:黒星紅白



(シリーズを通して)あとがきが凝っているところ

◇主人公の旅する国々はどれも特徴的な所で、その国ならではの習慣や常識があります。どの話でも、戦争についての考え方や人体実験の賛否など、現実でも倫理的に考えさせられるものばかりなので、お薦めしたいと思いました。

◆私が読んだのはもう10年以上前のことですが、今読み返しても、クラスで1人だけ意見が違ってしまった時のような疎外感を感じます。自分だったらどう考えるか、周りの人に反対されてもその意見を貫けるか、考えながら読んでみて下さい。(司書)

『塩の街』

有川浩 株式会社KADOKAWA 角川文庫



★彼が世界を救ったとしたら彼女のためだけに救ったのだ。彼女がその世界にいるから。その世界に彼女が生きているから。

◇人が他人を好きになる事、つまり恋をする事について、登場人物の内面を丁寧な描写で積み重ねていくうちに、読者の心が主人公に重なり、読者が恋を体験してしまうところ。

◆世界がある日突然飛来した「塩」により侵され、極限状態となる。その中で出会った2人の男女が年齢や立場の違いに戸惑いながら少しずつ自分の気持ちを確かめ互いに好きになっていくところに胸がキュンと鳴りますよ!(ボランティア)

『ブヒ道』

小泉吉宏 ポプラ社



◇この本はなまけものサムライ豚兵衛が師匠との問答の中で、禅と剣の道を知り、成長していく四コマ漫画集です。ブタの豚兵衛と自分が重なり、はっとしたり、笑えたり…読後は心がふんわり温かくなります。

◆豚兵衛の表情や思考の変化に注目です。漫画とはいえ「武士道」をまじめに説き、子どもから大人まで楽しめる一冊です。(ボランティア)

『おおきな木』

シェル・シルヴァスタイン あすなろ書房 訳:村上春樹



◇小学校の読み聞かせボランティアをしている時に会った本です。村上春樹さんが訳したことで話題にもなりました。タイトルと表紙を見た限りでは子ども向けの絵本だと思いましたが、単純でやさしい言葉で書かれていながら内容はとても深く考えさせられました。

絵本なんて…と思わずに中学生の皆さんにも読んで欲しい一冊です。

◆初めて読んだ時には主人公の少年のわがままさに反感を持ち、おおきな木が全て受け入れ与えることが不可解でした。時を経て読み直してみると木の立場が少し理解できたり、少年の別の一面を感じることができました。読者のその時の環境や立場によって捉え方が変わる物語です。(ボランティア)

『クリスマスの思い出』

トルーマン・カポーティ 文藝春秋 訳:村上春樹



★「ねえ、ごらんよ！」と彼女は叫ぶ。その息は窓を曇らせる。

「フルーツケーキの季節が来たよ！」

◇肌寒くなるこの季節になると毎年読みたくなるような一冊です。装丁・挿絵も素敵なのでクリスマスプレゼントにぴったりです。

◆少年と老婆と犬がクリスマスを過ごす、一見簡単そうな短い物語ですが、胸にグッときます。村上氏の訳も味わい深いですが、他の訳者・原文でも読んでみたくくなります。読む度に感じ方が変わるかもしれません。ぜひ、何度も読み返して欲しいと思います。(ボランティア)

先生からのおすすめ

『悪霊』ドストエフスキー 新潮社

『怒りの葡萄』ジョン・スタインベック 新潮社

『一瞬の風になれ』佐藤多佳子 講談社

『永遠の0』百田尚樹 講談社

『風の中のマリア』百田尚樹 講談社

『カラフル』森絵都 文藝春秋

『木に学べ』西岡常一 小学館

『こころ』夏目漱石 新潮社

『塩狩峠』三浦綾子 新潮社

『13 階段』高野和明 講談社

『少年H』妹尾河童 新潮社

『その日のまえに』重松清 文藝春秋

『チボー家の人々』ロジェ・マルタン・デュ・ガール 白水社

『罪と罰』ドストエフスキー 新潮社

『手紙』東野圭吾 文藝春秋

『ナイン・ストーリーズ』J.D.サリンジャー 新潮社

『流れる星は生きている』藤原てい 中央公論新社

『八月六日上々天気』長野まゆみ 河出書房新社

『バッテリー』あさのあつこ 株式会社KADOKAWA

『秘密』東野圭吾 文藝春秋

『フラニーとズーイ』J.D.サリンジャー 新潮社

『万寿子さんの庭』黒野伸一 小学館

『夜のピクニック』恩田陸 新潮社

『ライ麦畑でつかまえて』J.D.サリンジャー 白水社

『冷静と情熱のあいだ』辻仁成・江國香織 株式会社KADOKAWA

Kaga Junior High School My Favorite Books

2018 年 3 月 初版第一刷

著者

平成 29 年度 加賀中学校前期図書委員会・加賀中学校教諭・地域支援図書ボランティア

編集

板橋区立東板橋図書館YA担当 今子青佳

発行

板橋区立東板橋図書館

(指定管理者 丸善・東急コミュニティー共同事業体 丸善雄松堂株式会社)

〒173-0003 東京都板橋区加賀 1-10-15

Tel:03-3579-2666

表紙:加賀中学校 2年2組 酒迎野々華

印刷:プリントバック

©2018 板橋区立東板橋図書館